

幸町地区総合整備事業案

(第7回幸町地区総合整備検討有識者会議)



令和6年9月

幸町地区総合整備検討有識者会議
(事務局: 呉市企画部)

【目次】

●幸町地区総合整備コンセプト	P 1
●幸町地区総合整備案 総括表	P 2
●幸町地区に求める機能と各機能の想定面積	P 3
●第1案 美術館現在地建替+青山クラブ全部保存案	P 4
・幸町地区施設・機能配置案	P 4
・美術館現在地建替案	P 5
・青山クラブ保存・活用案	P 6
・青山クラブ床面撤去案	P 7
・青山クラブ・各フロアのゾーニング案	P 8
・青山クラブ・各フロアの詳細ゾーニング案	P 9
●第2案 美術館青山クラブ敷地・中庭新築+青山クラブ一部保存案	P 10
・幸町地区施設・機能配置案	P 10
・美術館青山クラブ敷地・中庭新築案	P 11
・青山クラブ保存・活用案	P 12
・青山クラブ撤去計画範囲	P 13
・青山クラブ・各フロアのゾーニング案	P 14
・青山クラブ・各フロアの詳細ゾーニング案	P 15
●第3案 青山クラブ外壁保存案	P 16
・青山クラブ保存・活用案	P 16
・青山クラブ・各フロアのゾーニング案	P 17
・青山クラブ・各フロアの詳細ゾーニング案	P 18
・外壁保存の考え方	P 19
・外壁保存整備案	P 20
●桜松館全部保存案	P 21
・桜松館整備案	P 21
・桜松館・各フロアのゾーニング案	P 22
●幸町地区回遊性機能向上案	P 23
・幸町地区内の回遊性向上の考え方	P 23

整備コンセプト

幸町地区に求める機能

有識者会議での意見・提案

■つどう

- ・市民がつどう
- ・観光客がつどう
- ・芸術などの文化がつどう
- ・サードプレイスのような場所としてつどう

■つながる

- ・未来の子どもたちへつなげる
- ・市民と観光客がつながる
- ・仲間どうしがつながる
- ・呉の物語を未来へつなげる

■感じる

- ・もうひとつの「呉」
ここでしかできないもの・ことを体感する
(まちや人々の歴史・文化などの物語を感じる)
- ・幸町地区の歴史的経緯を踏まえ、海軍、海上自衛隊を始めとした、海とともに歩んできた呉の歴史に触れる(平和の大切さを感じる)

■育む

- ・呉の歴史、文化、伝統を学ぶ
- ・まちへの愛着を育む
- ・新たな自分を発見し、成長する
- ・新たなものを生み出し、発信する

呉の歴史を伝え、感じる施設

文化・芸術に親しみ、発信する施設

まちの情報発信・賑わいの拠点

- ◆呉の歴史を伝える出発点
- ◆呉の歴史を継承する場所
- ◆幸町地区が歩んできた物語を生かした施設
- ◆建物の歴史・価値を伝える施設
- ◆幸町地区の歴史的経緯を踏まえ、海軍・海上自衛隊を始めとした、海とともに歩んできた呉の歴史を通じて、平和を感じる場所
- ◆「この世界の片隅に」に関連した施設
(当時の市民の生活を感じることができる施設)

- ◆美術館機能(美術館を中心とした文化の拠点)
- ◆スタジオ・ホール機能、ハブ的な機能
(様々な活動に取り組み、発信する場所)
- ◆呉の文化に親しみ、自ら発信できる場所
- ◆講座や自主サークルの活動ができる施設
- ◆文化・芸術に興味を持つきっかけとなる場所

- ◆まちのコンシェルジュ
- ◆まちのインフォメーション
- ◆まち歩き拠点
- ◆サイクリストのための結節点
- ◆ものづくりのまちを発信する拠点
- ◆高校生を始めとした若い世代の人たちのための場所
気軽に来訪できる施設
何かを創造し、生み出すことができる場所
家や学校ではない、もう一つの世界
- ◆飲食・物販・宿泊機能

第1案 美術館現在地建替（3階建て）＋青山クラブ全部保存案

●整備概要・各案の比較ポイント

【美術館】

- ・現在地で建替（3階建て，建築面積：約1,500㎡，延べ床面積：約4,500㎡），桜松館との一体的な活用を検討
- ・現在地での建替となり，故山苑との一体的な活用が可能となる。
- ・国道沿いから奥まったところに美術館を配置することで，閑静な落ち着いた雰囲気を感じることができる美術館とすることができる。
- ・建築面積が狭く，建物のレイアウトが制限されることが懸念される。
- ・3階建ての建物になるため，幸町地区の景観との調和を保った建物を建設する必要がある。

【青山クラブ】

- ・青山クラブの建物を全部保存した形で利活用する。
- ・必要な機能・面積に対して建物の規模が大きく，耐震改修等対策工事が多くなることから，整備費が最も大きくなる。

【中庭】

- ・創建当時の雰囲気が残る空間として活用することができる。

【全体事業費】

項目	事業費
青山クラブ整備費	約93億円
桜松館整備費	約25億円
美術館新築費	約24億円
現美術館解体費	約3億円
合計	約145億円

第2案 美術館青山クラブ敷地・中庭新築（2階建て）＋青山クラブ一部保存案

●整備概要・各案の比較ポイント

【美術館】

- ・青山クラブ敷地・中庭の一部に新築（2階建て，建築面積：約2,250㎡，延べ床面積：約4,500㎡），桜松館との一体的な活用の検討
- ・国道沿いに美術館を設置することで，子どもや高齢者の訪れやすい施設となり，地区全体の集客力あるエントランスになる。
- ・建築面積を広く設定することができ，美術館として，自由度の高い建物のレイアウトが可能となる。
- ・2階建ての建物にすることで，幸町地区の景観との調和を確保することが可能となる。

※新たに整備する美術館は，天井高4.5mが求められているが現在の青山クラブの建物では，天井高を確保することができない。
 ⇒このため，青山クラブ敷地の一部に美術館を新築する場合，青山クラブの建物の一部を解体する必要がある。

【青山クラブ】

- ・青山クラブの建物の一部を保存し，情報発信，物販・カフェレストラン等の必要な機能の想定面積を収める。
- ・第1案（青山クラブ全部保存案）より整備費を縮減できる。

【中庭】

- ・美術館通りからJR呉線側道路までのオープンスペースとして整備することで，市民に開かれた賑わい空間として活用できる。

【全体事業費】

項目	事業費
青山クラブ整備費	約33億円
桜松館整備費	約25億円
美術館新築費	約24億円
現美術館改修費	約7億円
合計	約89億円

第3案 青山クラブ外壁保存案

●整備概要・各案の比較ポイント

【青山クラブ】

- ・青山クラブの外壁を残して建物を解体し，必要な機能の想定面積の建物を新築整備
 - ・青山クラブの建物の外壁を保存することで，青山クラブのイメージを残しつつ，配置する機能に応じた建物を柔軟に整備できる。
 - ・外壁保存の場合も，外壁面から最低1スパン分の床面は撤去不可（この部分も耐震補強が必要）
 - ・現在の外壁材（モルタル）をはがすと創建当時のスクラッチタイルも破損する。
- ⇒創建当時の外壁を復元する場合，現在の外壁を保存することはできない。

【中庭】

- ・新築建物に応じて柔軟に中庭を整備できる。

【全体事業費】

	第1案の場合	第2案の場合
青山クラブ整備費	約50億円	約50億円
新築建物整備費（※1）	約24億円	約10億円
桜松館整備費	約25億円	約25億円
美術館新築費	約24億円	約24億円
現美術館改修費	—	約7億円
現美術館解体費	約3億円	—
合計	約126億円	約116億円

※全体事業費は，第1案から第3案のいずれも概算の数値です。

※青山クラブ整備費，桜松館整備費，現美術館改修費は，これまでに実施した建物調査業務等をもとに算出

※美術館新築費，現美術館解体費，新築建物整備費は，類似事例の事業費を参考に面積按分により算出

（※1）第1案：呉の歴史を伝え，感じる施設
 ＋まちの情報発信・賑わいの拠点 約14億円
 第2案：まちの情報発信・賑わいの拠点 約10億円

◆幸町地区に求める機能と各機能の想定面積

呉の歴史を伝え、感じる施設

幸町地区に求める機能	新たに整備する施設と想定面積	第1案	第2案
・郷土館・歴史民俗資料館の機能の充実	・歴史展示室・収蔵庫 1,000㎡	青山クラブ	現美術館
・海軍関連の文学作品・資料の展示、書斎の再現	・文学館 400㎡	青山クラブ	現美術館
・「この世界の片隅に」の原画等の展示	⇒映像作品ライブラリー —	青山クラブ	現美術館
・映像作品ライブラリー、ロケ作品の紹介	・映像作品ライブラリー 100㎡	青山クラブ	現美術館
・青山クラブ及び桜松館を含めた幸町地区の歴史の紹介（パネル展示）	⇒歴史展示室 —	青山クラブ	現美術館
・旧呉鎮守府司令長官官舎のユニークベニューとしての活用	—	旧呉鎮守府司令長官官舎	
・旧鎮守府司令長官官舎周辺の樹木の管理（海の見える眺望の確保）	屋外スペース —	幸町エリア全体	
・園内路の整備（当時の遊歩道の復元）	屋外スペース —	幸町エリア全体	

文化・芸術に親しみ、発信する施設

幸町地区に求める機能	新たに整備する施設と想定面積	第1案	第2案
・美術館機能の展示スペース、収蔵機能の強化・拡充	・新美術館 4,850㎡		新美術館
・音楽やダンスなどの活動を発表できるホール機能	・多目的ホール 330㎡		桜松館
・音楽活動の練習室	・音楽活動練習室 70㎡		桜松館
・絵画教室などのサークル活動やワークショップができる多目的スペース、貸館機能	・多目的スペース・貸室 800㎡		桜松館
・呉市の食文化の紹介	⇒歴史展示室 —	青山クラブ	現美術館
・故山苑の魅力向上	屋外スペース —	新美術館	現美術館

まちの情報発信・賑わいの拠点

幸町地区に求める機能	新たに整備する施設と想定面積	第1案	第2案
・まちのインフォメーション、情報発信コーナー	・情報発信コーナー 300㎡	青山クラブ	
・サイクリストの休憩スペース（サイクルスタンド）	屋外スペース —	青山クラブ	
・カフェまたはレストラン	・カフェ・レストラン 300㎡	青山クラブ	
・物販施設（美術館と併設したショップ、呉のお土産の販売、チャレンジショップ、マルシェ等）	・物販施設 700㎡	青山クラブ	
・宿泊施設	・宿泊施設 施設規模による	青山クラブ	
・青山クラブ中庭の整備（イベント開催が可能なオープンスペース）	屋外スペース —	青山クラブ	
・誰でも休憩できるフリースペース	・フリースペース 200㎡	青山クラブ	
・スポーツ施設の関連施設	⇒美術館別館1階で検討 —	美術館別館	

■青山クラブ 活用想定面積

●第1案 3,000㎡

- ・呉の歴史を伝え、感じる施設 1,500㎡
- ・まちの情報発信・賑わいの拠点 1,500㎡

●第2案 1,500㎡

- ・まちの情報発信・賑わいの拠点 1,500㎡

※第3案は、第1案で「青山クラブ」、第2案で「青山クラブ」・「新美術館」と記載している機能の想定面積の新築建物を、青山クラブの外壁を残して建物を解体したエリアに整備



①美術館

- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
- ・新美術館、故山苑の魅力向上

②青山クラブ

- 呉の歴史を伝え、感じる施設
 - ・歴史展示室・収蔵庫(2号館・郷土館の機能移転)
 - ・文学館、「この世界の片隅に」展示スペース、映像作品ライブラリー
- まちの情報発信・賑わいの拠点
 - ・情報発信コーナー、フリースペース、サイクルスタンド
 - ・カフェ・レストラン、物販施設、宿泊施設
 - ・青山クラブ中庭の整備(イベント開催が可能なオープンスペース)

③桜松館

- ホール機能の活用、新たに整備する美術館と一体的に活用
- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
 - ・多目的ホール、音楽活動練習室、多目的スペース・貸室

④美術館別館

- 新美術館に専用の収蔵庫を整備⇒第2収蔵庫として活用
- 1階部分は、陸上競技場の関連施設としての活用を検討
- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
 - ・美術館機能の展示スペース、収蔵機能の強化・拡充
- まちの情報発信・賑わいの拠点
 - ・スポーツ施設の関連施設

⑤入船山記念館

- ア 旧呉鎮守府司令長官官舎
 - 呉の歴史を伝え、感じる施設
 - ・通常の見学に加え、ユニークベニューとしての活用
- イ 歴史民俗資料館(近世文書館)
 - 呉の歴史を伝え、感じる施設
 - ・郷土館・歴史民俗資料館の機能の充実
 - ・収蔵庫を活用した歴史資料(近世文書等)の収蔵
- ウ 旧高鳥砲台火薬庫, 旧呉海軍工廠塔時計, 旧東郷家住宅離れ
 - 呉の歴史を伝え、感じる施設
 - ・通常の見学に加え、ユニークベニューとしての活用
- エ 2号館, 郷土館
 - 青山クラブへの機能移転(移転後は民間活用や解体を含めて検討)

⑥幸町エリア全体

- 呉の歴史を伝え、感じる施設
 - ・旧鎮守府司令長官官舎周辺の樹木の管理(海の見える眺望の確保)
 - ・園内路の整備(当時の遊歩道の復元)



■美術館の整備について

●美術館整備概要

- ・建築面積：約1,500㎡，3階建て（延べ床面積：4,500㎡）
- ・天井高：4.5m以上→階高：5.5mと設定
- ※5.5m×3階建て+1.5m→18m以上の建物となる（屋根を除く）。

・現在の美術館

1階：約5m，2階：約4.4m，屋根：約8.76m（地上高：約18.16m）

⇒新たに整備する美術館は、屋根部分を含めた現在の美術館と同程度の高さとなる見込（屋根を設ける場合は、さらに高さが必要）

●メリット

- ・現在地での建替となり、**故山苑・桜松館との一体的な活用が可能**（桜松館との連結検討）
- ・国道沿いから奥まったところに美術館を配置することで、**閑静な落ち着いた雰囲気を感じることができる美術館とすることができる。**
- ・現在地での建替とすることで、来館者出入口、展示品搬出入を現在とほぼ同様の位置で設定することが可能

●整備に当たっての課題

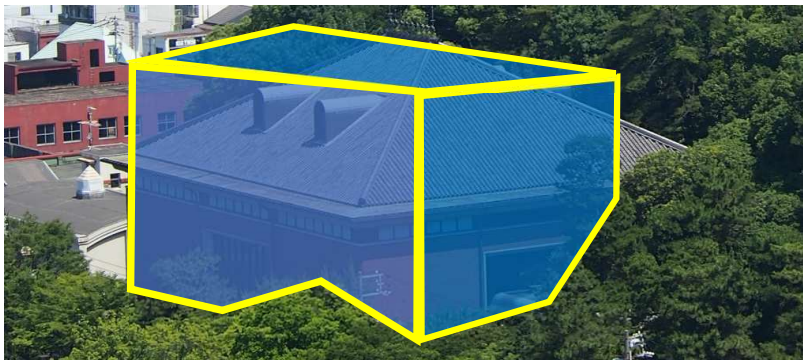
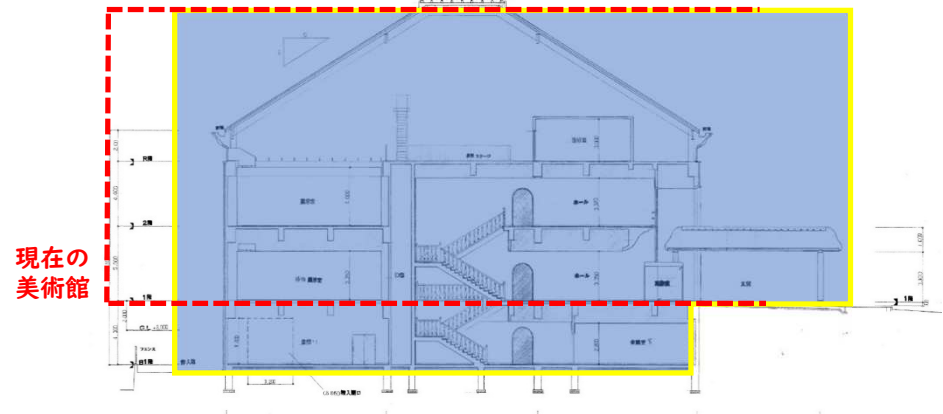
- ・建築面積が狭く（約1,500㎡），**建物のレイアウトが制限されることが懸念される。**
- ・3階建ての建物になるため、**幸町地区の景観との調和を保った建物を建設する必要がある。**
- ・入館者及び施設管理者にとっても、1階から3階までの移動による負担が生じる。
- ・現地建替の場合、美術館に長期の休館期間が生じる。

※美術館の具体的な整備内容については、美術館あり方検討委員会での意見の取りまとめを受けて、市で決定

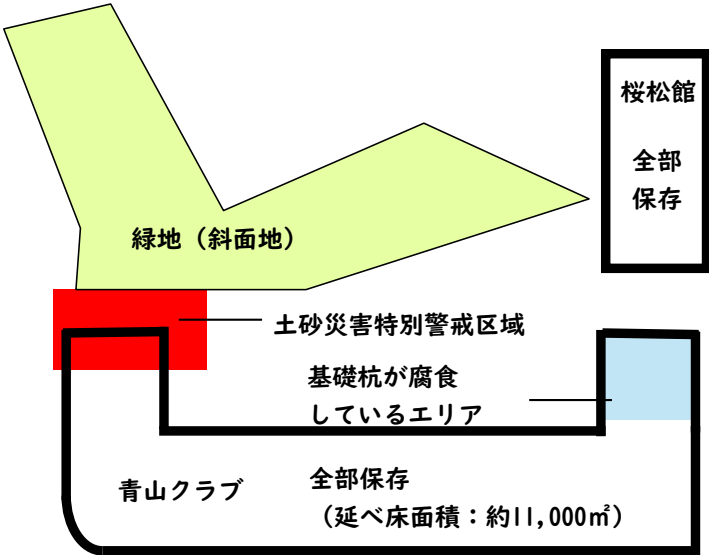
■美術館整備・高さ参考

地上高：18.16m

新美術館 高さ：18m以上必要



▲現在の美術館と同程度の高さとした場合のイメージ

整備案概要	・青山クラブの建物を全部保存した形で利活用する。ただし、土砂災害特別警戒区域部分、基礎杭が腐食している区域は未活用エリアとする。 ・必要な機能の想定面積を全て収めることが可能											
平面図		■青山クラブ整備費 <table><tr><td>耐震・補強</td><td>約4.2億円</td></tr><tr><td>アスベスト除去</td><td>約 3億円</td></tr><tr><td>建物等撤去</td><td>約 3億円</td></tr><tr><td>建物・外構</td><td>約4.5億円</td></tr><tr><td>整備費合計</td><td>約9.3億円</td></tr></table> ※整備費は概算の数値です。	耐震・補強	約4.2億円	アスベスト除去	約 3億円	建物等撤去	約 3億円	建物・外構	約4.5億円	整備費合計	約9.3億円
耐震・補強	約4.2億円											
アスベスト除去	約 3億円											
建物等撤去	約 3億円											
建物・外構	約4.5億円											
整備費合計	約9.3億円											
各案の比較ポイント	【青山クラブ】 - 青山クラブの建物を<u>全て保存</u>することができる。 - 必要な機能の想定面積に対して<u>延べ床面積</u>が大きいため、<u>将来活用エリア</u>を設定する。 - 必要な機能・面積に対して建物の規模が大きく、耐震改修等対策工事が多くなることから、整備費が最も大きくなる。 【中庭】 - 建物を全部保存することで、<u>中庭も当時の雰囲気が残る</u>。 【青山クラブの保存部分】 <u>短期荷重（地震力）、長期荷重（積載荷重）</u>に対する補強が必要となる。 - 補強により、建物の活用可能面積が減少するとともに、天井高が低くなることで、<u>建物内部の使用方法が制限</u>されることが懸念される。 - スラブ・梁とも耐荷重が小さく、<u>建物全体で床補強が必要</u>となり、<u>補強費の増大が懸念</u>される。 - 既存建物を利用した改修となるため、新築建物と比較した場合、<u>将来的な維持管理に係る費用が増大</u>することが懸念される。 - 現行法規の制定以前に建築された建物のため、利活用に当たっての改修方法について、<u>現行法規への適合性の整理が必要</u>になるとともに、活用に当たって、制約が生じることが懸念される。 - 保存部分についても、現在の建物をそのまま活用することはできない（建物の大部分において耐震改修工事・補強工事、アスベストの除去、内装・設備機器一式の更新等、大規模な改修が必要）。											

■青山クラブ保存・活用品の検討

- 必要な機能の想定面積に対して延べ床面積が大きく、未活用となるエリアが多く残る。
- 階高が低い（1階：4.1m、2階：3.6m、3階：3.7m）。
- 補強により、天井高が低くなることで、建物内部の使用方法が制限されることが懸念される。

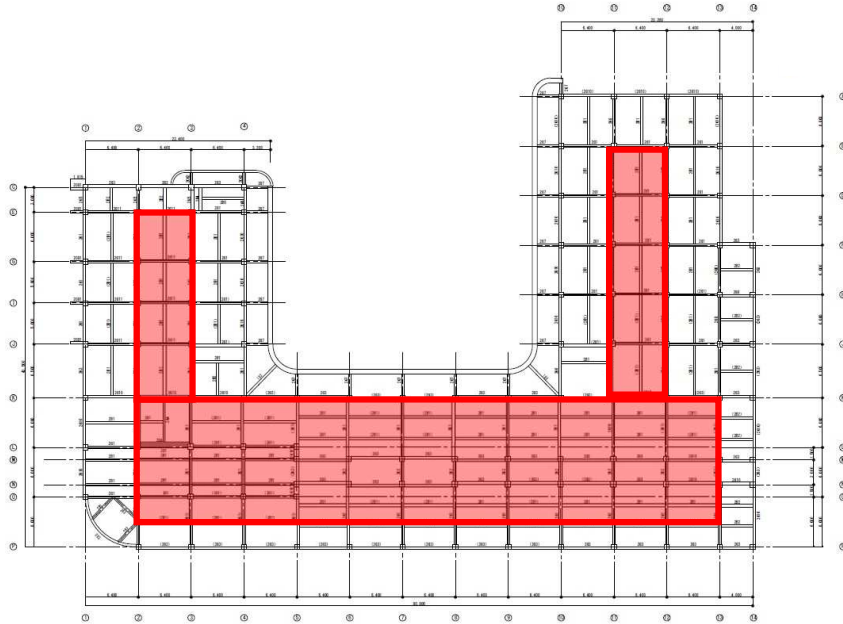
⇒2階・3階の床面を撤去して、地上3階建てから地上2階建てに改修する案を検討

■2階・3階床面撤去可能範囲

※第1案の計画実現を目的とし、第1案の計画方針に基づき、床面撤去可能範囲を明示

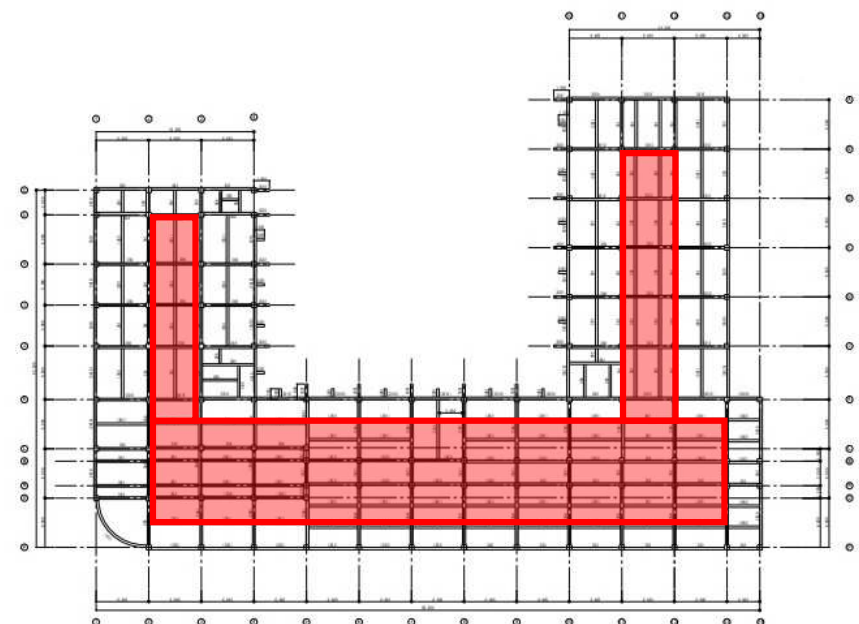
※撤去可能範囲は想定であり、詳細については今後確度の高い調査検討が必要

2階



床面撤去可能範囲

3階



床面撤去可能範囲

【設計条件】

- ・端部境界条件が変わり応力値が変わるため、原則として大梁は切断不可
※水平力（地震力）を大梁が負担しており、切断すると水平力に抵抗する力が小さくなる。
- ・小梁（X方向）は最大2スパンまでの床面撤去が可能（1スパン：柱間の距離）

【設計条件根拠】

- ・補強による曲げ応力（外部から加わる材を曲げようとする力に対する材の抵抗力）の再検討が必要（補強方法：両側の梁を増し打ち等）
- ・応力（外から力が加わった際、それに応じて内部に生じる抵抗力）の出現が変化するため、梁の側面を増打ち、適切な耐力確保ができるよう、「撤去した梁の両端1スパン分以上」を補強する必要がある。
- ・既存施設の補強に加え、床面撤去に係りさらに追加で補強が必要となる。また、広範囲の床面を撤去するため、強度を保つための補強が必要となると推測される。

【床面の考え方】

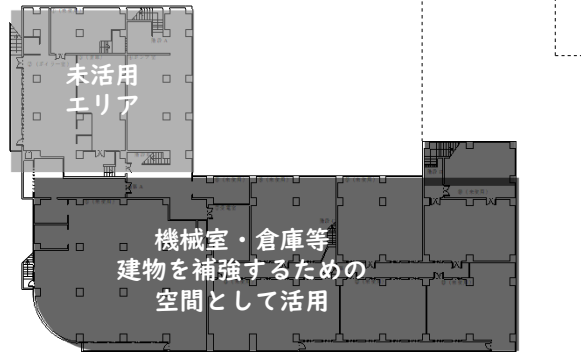
- ・2階・3階の床面について、全て撤去することはできず、活用可能面積が縮小する。

（床面を撤去したとしても大きな吹抜とはならず、軸組が可視化された空間となる）

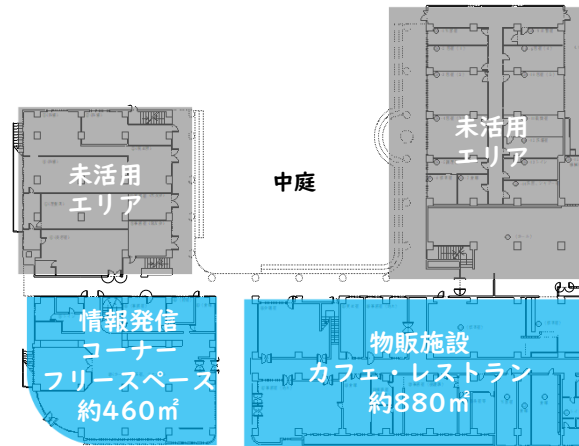
※床面の撤去は行わず、既存の1階・2階・3階の床面を活用する案で検討を実施（既存の床面・梁の補強を実施）

地下1階

- ・機械室・倉庫等，建物を補強するための空間として活用



1階



※来場者が利用しやすい1階にまちの情報発信・賑わいの拠点を配置

青山クラブ全部保存

⇒土砂災害特別警戒区域部分，基礎杭が腐食している区域は未活用エリアに設定

1階

まちの情報発信・賑わいの拠点 約1,340㎡

情報発信コーナー

フリースペース

物販施設

カフェ・レストラン

2階

呉の歴史を伝え、感じる施設 約1,450㎡

歴史展示室・収蔵庫

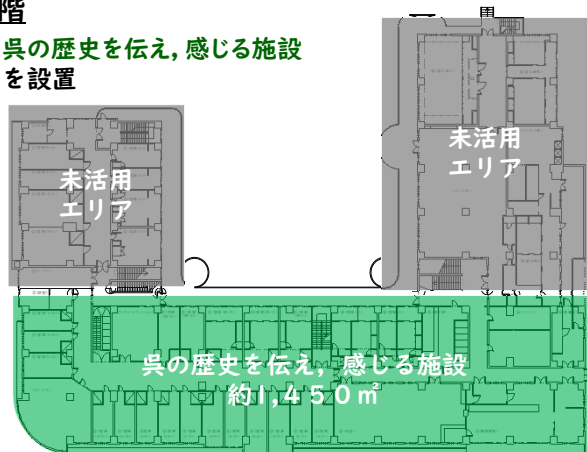
文学館

「この世界の片隅に」展示スペース

映像作品ライブラリー

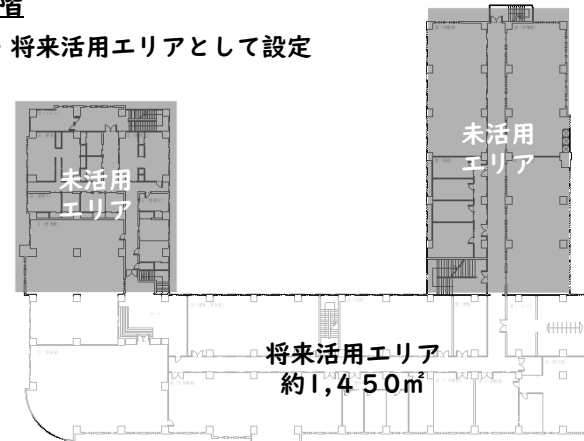
2階

- ・呉の歴史を伝え、感じる施設を設置



3階

- ・将来活用エリアとして設定



3階

将来活用エリア（将来活用機能案）

まちの情報発信・賑わいの拠点

宿泊施設



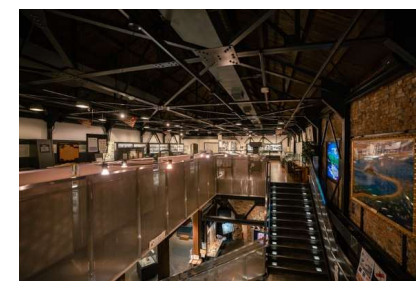
ホテルK5【出典】公式HP



金森赤レンガ倉庫【出典】公式HP



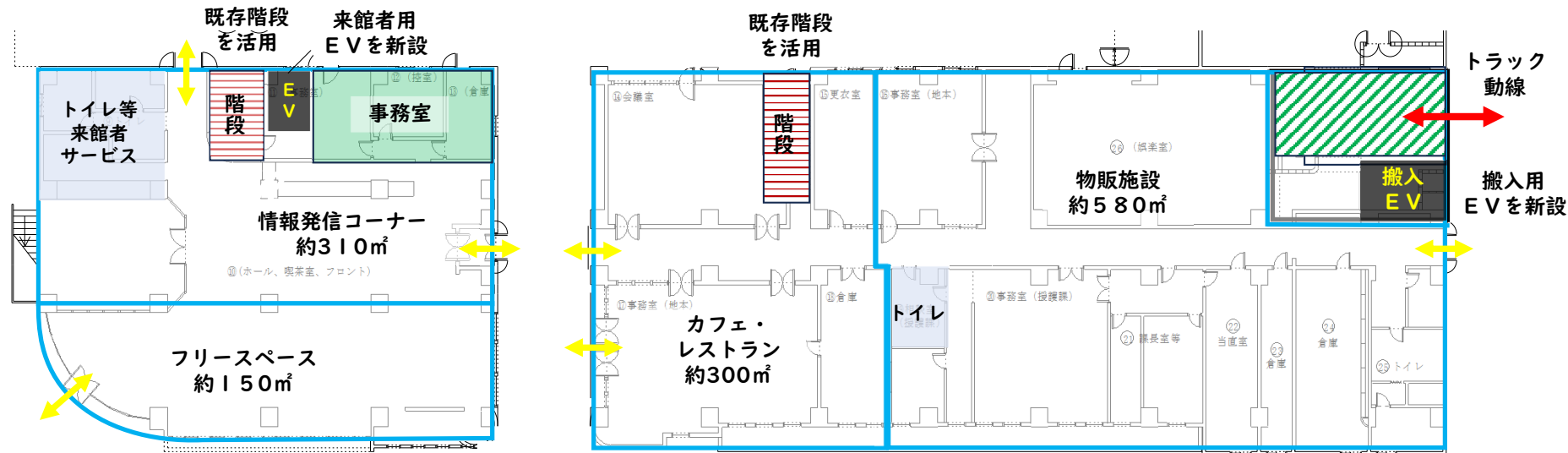
赤れんが博物館【出典】公式HP



赤れんが博物館【出典】公式HP

※3階は、将来活用エリアのため、耐震改修等を行うのみとする。

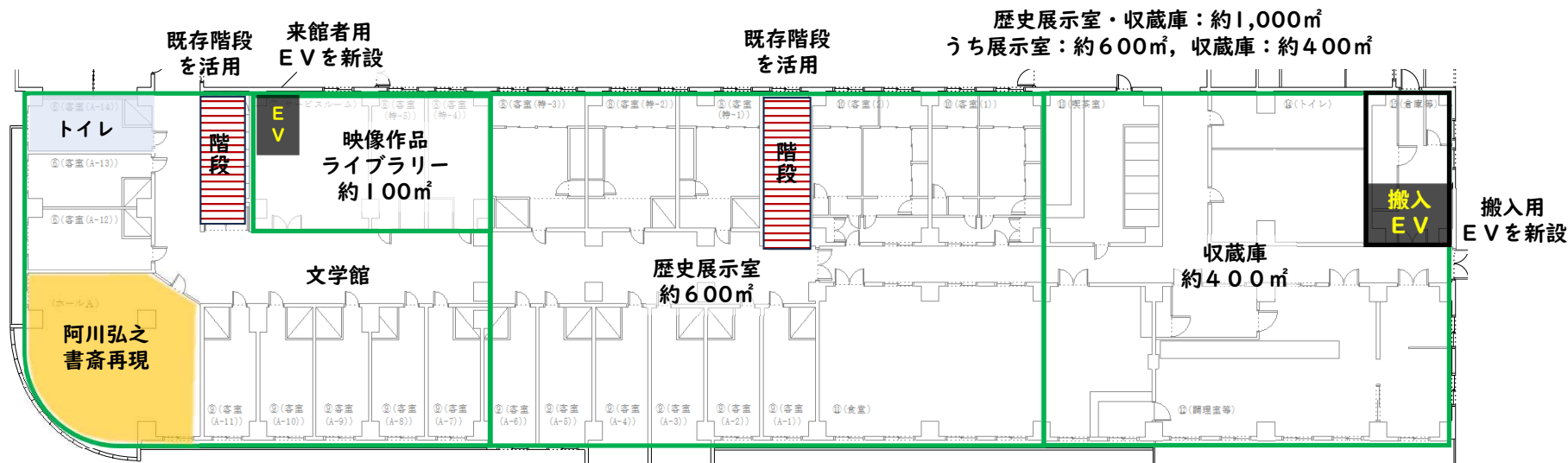
1階



- ・通りに面して、中の活動や様子が見える位置にフリースペースを配置
- ・飲食の賑わいが中庭に広がること（外部空間へのパラソルやテーブル・席の拡張）を考慮して、カフェ・レストランを配置
- ・物販機能は、美術館通りの顔となり、人の流れを取り込める位置に配置

来館者入口

2階



- ・一定の面積が必要となる歴史展示室・収蔵庫は、まとまった整形区画を取りやすい位置に配置
- ・歴史展示室・収蔵庫・文学館部分は、外光を遮るため、窓を全て塞ぐ必要がある。



①-1 新美術館

- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
- ・新美術館

①-2 現美術館⇒歴史展示室・収蔵庫

- 呉の歴史を伝え、感じる施設
- ・歴史展示室・収蔵庫(2号館・郷土館の機能移転), 故山苑の魅力向上
- ・文学館, 「この世界の片隅に」展示スペース, 映像作品ライブラリー

②青山クラブ

- まちの情報発信・賑わいの拠点
- ・情報発信コーナー, フリースペース, サイクルスタンド
- ・カフェ・レストラン, 物販施設, 宿泊施設
- ・青山クラブ中庭の整備(イベント開催が可能なオープンスペース)

③桜松館

- ホール機能の活用, 新たに整備する美術館と一体的に活用
- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
- ・多目的ホール, 音楽活動練習室, 多目的スペース・貸室

④美術館別館

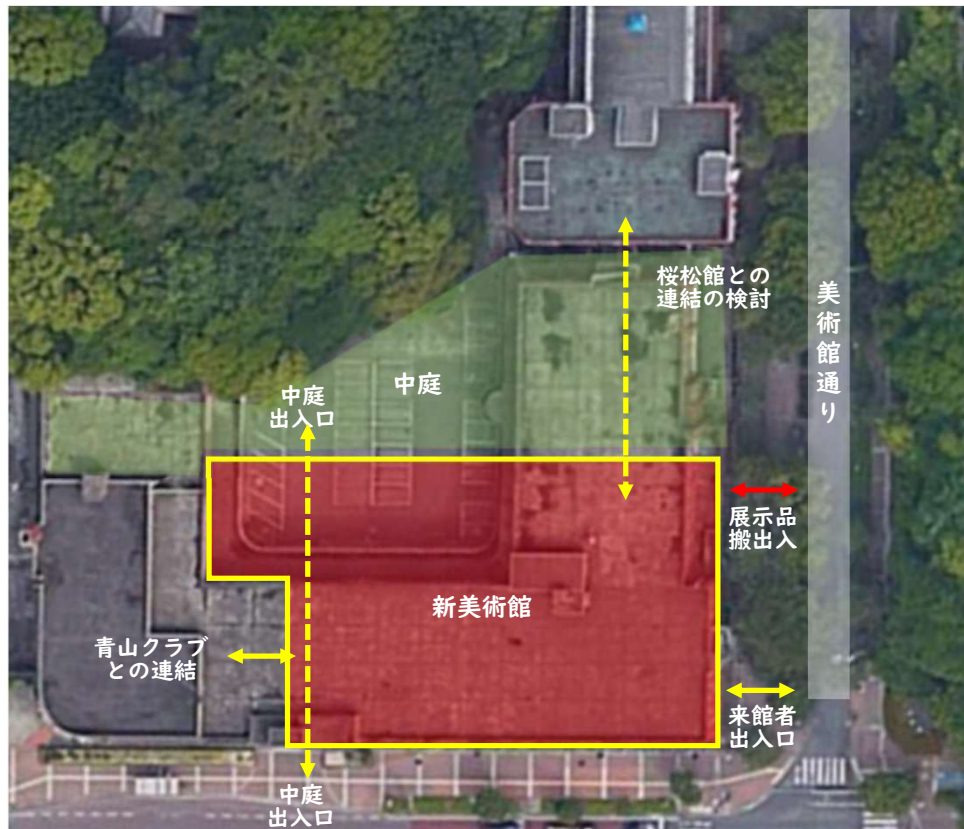
- 新美術館に専用の収蔵庫を整備⇒第2収蔵庫として活用
- 1階部分は, 陸上競技場の関連施設としての活用を検討
- 文化・芸術に親しみ、発信する施設
- ・美術館機能の展示スペース, 収蔵機能の強化・拡充
- まちの情報発信・賑わいの拠点
- ・スポーツ施設の関連施設

⑤入船山記念館

- ア 旧呉鎮守府司令官官舎
- 呉の歴史を伝え、感じる施設
- ・通常の見学に加え, ユニークベニューとしての活用
- イ 歴史民俗資料館(近世文書館)
- 呉の歴史を伝え、感じる施設
- ・郷土館・歴史民俗資料館の機能の充実
- ・収蔵庫を活用した歴史資料(近世文書等)の収蔵
- ウ 旧高鳥砲台火薬庫, 旧呉海軍工廠塔時計, 旧東郷家住宅離れ
- 呉の歴史を伝え、感じる施設
- ・通常の見学に加え, ユニークベニューとしての活用
- エ 2号館, 郷土館
- 現美術館への機能移転(移転後は民間活用や解体を含めて検討)

⑥幸町エリア全体

- 呉の歴史を伝え、感じる施設
- ・旧鎮守府司令官官舎周辺の樹木の管理(海の見える眺望の確保)
- ・園内路の整備(当時の遊歩道の復元)



■美術館の整備について

●美術館整備概要

- ・建築面積：約2,250㎡，2階建て（延べ床面積：4,500㎡）
- ・天井高：4.5m以上→階高：5.5mと設定
※5.5m×2階建て+1.5m→12.5m以上の建物となる。
- ・青山クラブの地上高：約12.65m～13.85m

※新たに整備する美術館は、青山クラブと同程度の高さとなる見込
（屋根を設ける場合は、さらに高さが必要）

- ・来館者・搬出入動線については、出入口（正面玄関）を（国道側ではなく）美術館通り側に配置することで、落ち着いた雰囲気確保
- ・美術館通り側に展示品搬出入口（美術品専用車）を設置することで、搬入・搬出作業を行いやすい環境を確保
- ・青山クラブ・桜松館との一体的な活用が可能（青山クラブ・桜松館との連結の検討）

●メリット

- ・建築面積を広く設定することができ、美術館として、自由度の高い建物のレイアウトが可能となる。
- ・2階建ての建物にすることで、幸町地区の景観との調和を確保することが可能となる。
- ・リニューアルによる休館期間が短期間となる。
- ・国道沿いに美術館を配置することで、開放感のある美術館とすることができる。
- ・国道沿いに美術館を設置することで、子どもや高齢者の訪れやすい施設となり、地区全体の集客力あるエントランスになる。

●美術館の整備に当たっての課題

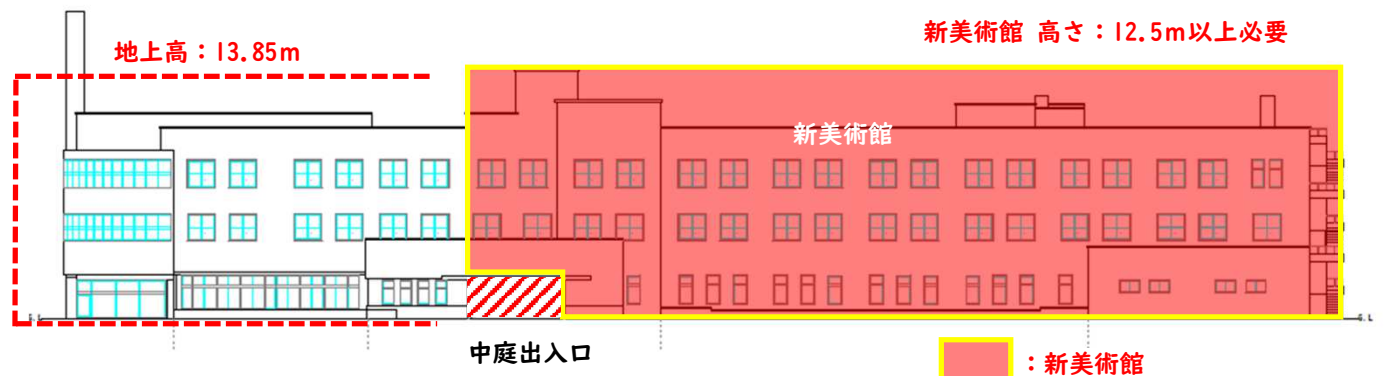
- ・故山苑との一体的な活用が困難となる（桜松館との一体的な活用は可能）。
- ・国道からの振動・騒音対策の検討が必要
※RC造であれば、振動はほぼ発生しないと考えられる。騒音対策として、国道から離れた位置に展示スペースを配置するなどの検討を実施

※美術館の具体的な整備内容については、美術館あり方検討委員会での意見の取りまとめを受けて、市で決定

■美術館整備・高さ参考

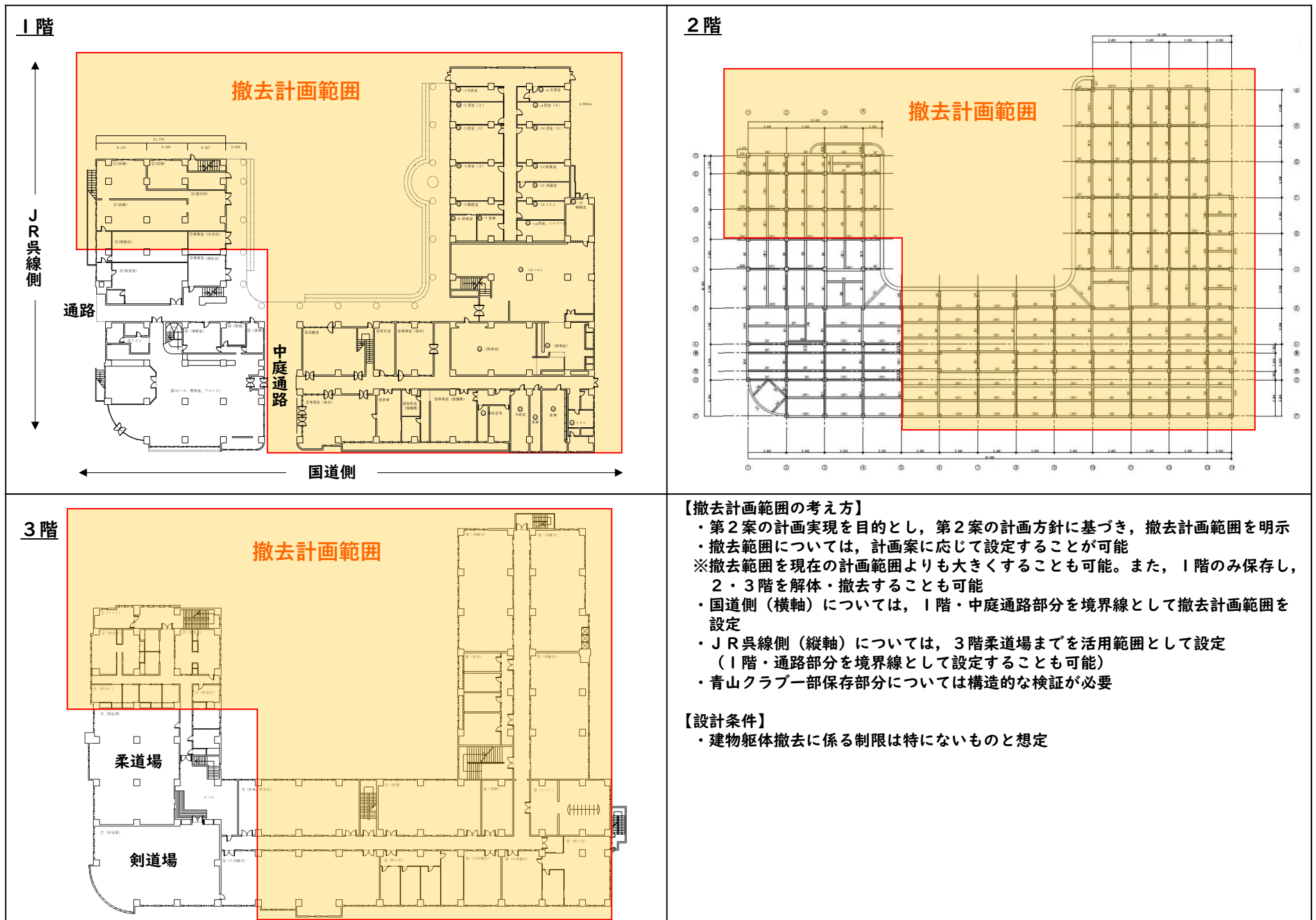


▲青山クラブと同程度の高さとした場合のイメージ



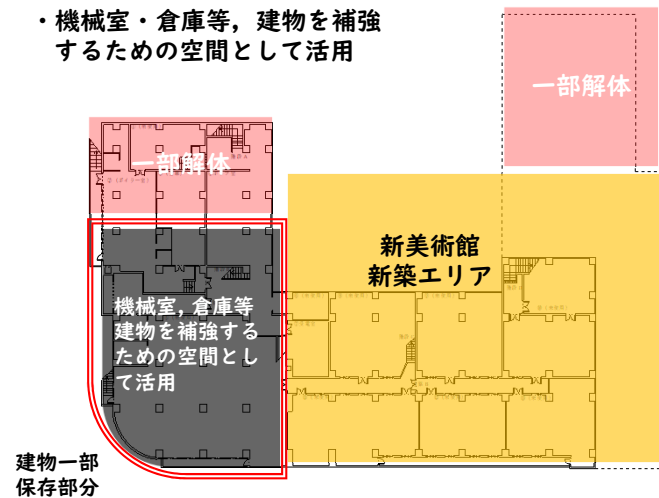
※現在の中庭への出入口を確保した形で新美術館の整備を検討

整備案概要	・青山クラブの建物の一部を保存し、情報発信、物販・カフェレストラン等の必要な機能の想定面積を収めるとともに、残りの建物を解体したエリアに美術館を新築 ・土砂災害特別警戒区域部分についても解体する。											
平面図		■青山クラブ整備費 <table><tr><td>耐震・補強</td><td>約 9 億円</td></tr><tr><td>アスベスト除去</td><td>約 3 億円</td></tr><tr><td>建物等撤去</td><td>約 10 億円</td></tr><tr><td>建物・外構</td><td>約 11 億円</td></tr><tr><td>整備費合計</td><td>約 33 億円</td></tr></table> ※整備費は概算の数値です。	耐震・補強	約 9 億円	アスベスト除去	約 3 億円	建物等撤去	約 10 億円	建物・外構	約 11 億円	整備費合計	約 33 億円
耐震・補強	約 9 億円											
アスベスト除去	約 3 億円											
建物等撤去	約 10 億円											
建物・外構	約 11 億円											
整備費合計	約 33 億円											
各案の比較 ポイント	【青山クラブ】 - 青山クラブの建物の一部を保存・活用することができる。 - 美術館新築部分について、外壁を撤去するが、青山クラブの建物のイメージを踏まえた外観とすることは可能 【中庭】 - 中庭について、広い空間を確保するとともに、美術館通りからのオープンスペースとして活用することが可能											
	【青山クラブの保存部分】 - 第1案（青山クラブ全部保存案）より整備費を削減できる。 - 短期荷重（地震力）、長期荷重（積載荷重）に対する補強が必要となる。 - 補強により、建物の活用可能面積が減少するとともに、天井高が低くなることで、建物内部の使用方法が制限されることが懸念される。 - スラブ・梁とも耐荷重が小さく、建物全体で床補強が必要となり、補強費の増大が懸念される。 - 既存建物を利用した改修となるため、新築建物と比較した場合、将来的な維持管理に係る費用が増大することが懸念される。 - 現行法規の制定以前に建築された建物のため、利活用にあたっての改修方法について、現行法規への適合性の整理が必要になるとともに、活用にあたって、制約が生じることが懸念される。 - 保存部分についても、現在の建物をそのまま活用することはできない（建物の大部分において耐震改修工事・補強工事、アスベストの除去、内装・設備機器一式の更新等、大規模な改修が必要）。											



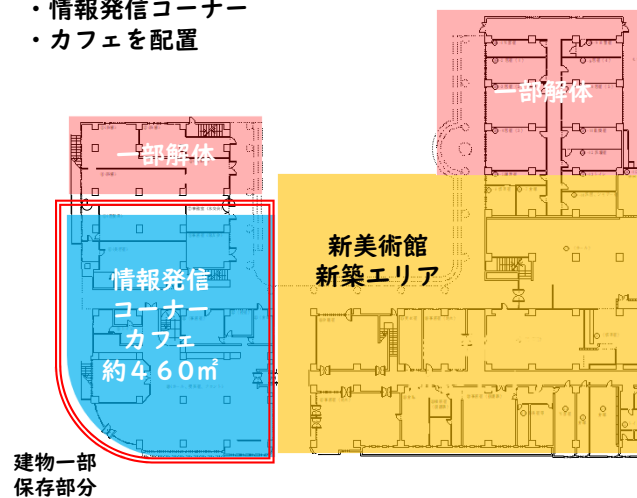
地下1階

- ・機械室・倉庫等，建物を補強するための空間として活用



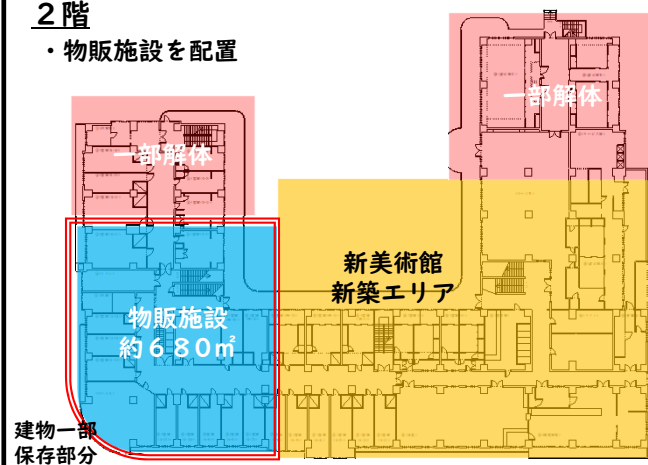
1階

- ・情報発信コーナー
- ・カフェを配置



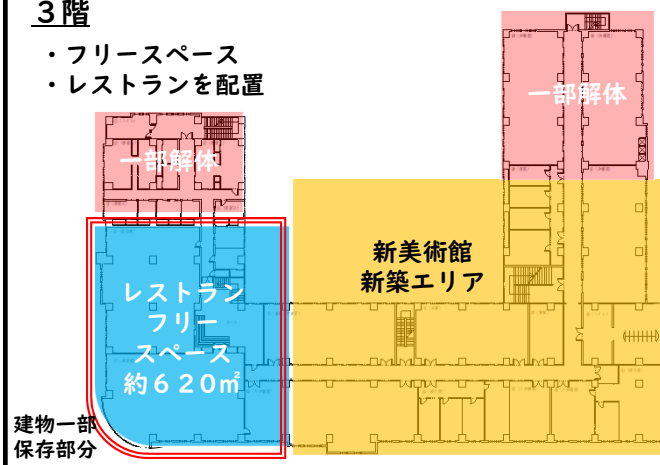
2階

- ・物販施設を配置



3階

- ・フリースペース
- ・レストランを配置



青山クラブ一部保存

⇒青山クラブの建物のうち，建物の一部を
利活用するとともに建物を解体したス
ペースに美術館を新築
⇒土砂災害特別警戒区域部分についても解
体する。

1階

まちの情報発信・賑わいの拠点 約460㎡

情報発信コーナー

カフェ

2階

まちの情報発信・賑わいの拠点 約680㎡

物販施設

3階

まちの情報発信・賑わいの拠点 約620㎡

レストラン

フリースペース



スターバックスコーヒー門司港駅店【出典】公式HP



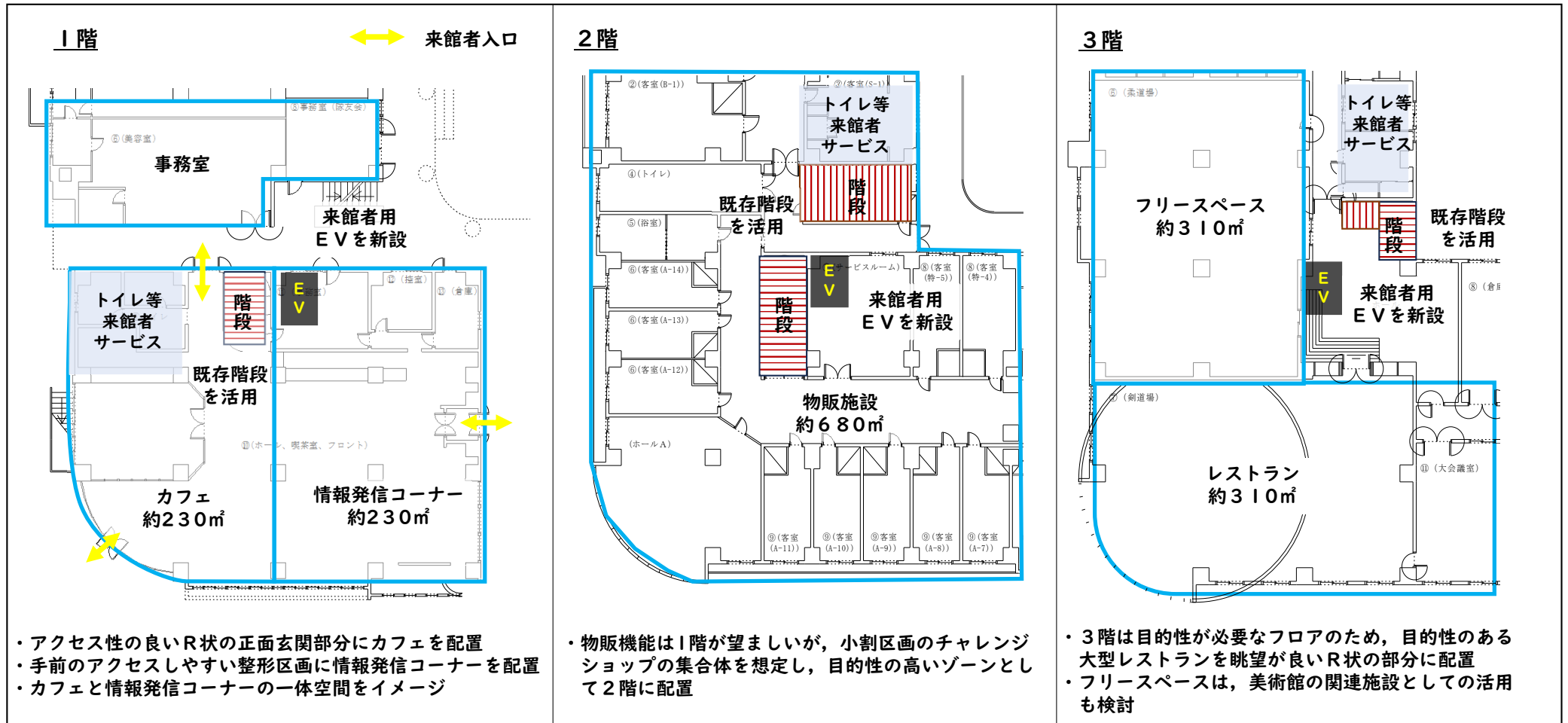
チャレンジショップ【出典】須賀川市HP



舞鶴赤れんがパーク・フリースペース【出典】公式HP



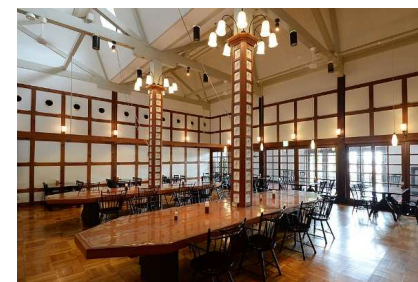
ホテルK5



■青山クラブと新美術館の連結（案）

※詳細なレイアウトについては、今後、基本設計・実施設計の中で検討

	青山クラブ	新美術館	
3階階高 3.7m	3階	階段新設	2階階高 5.5m
2階階高 3.6m	2階	階段新設	1階階高 5.5m
1階階高 4.1m	1階		



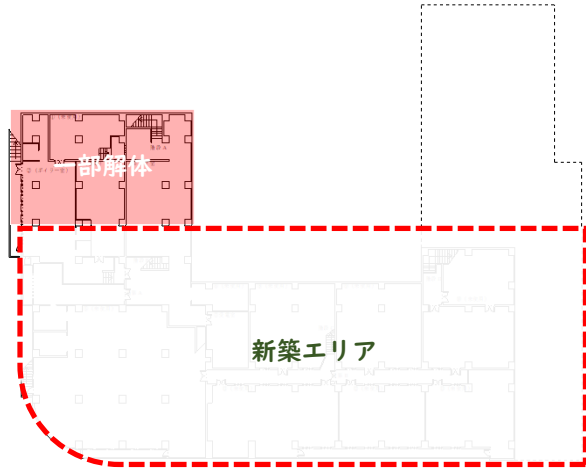
倉敷アイビースクエア【出典】公式HP



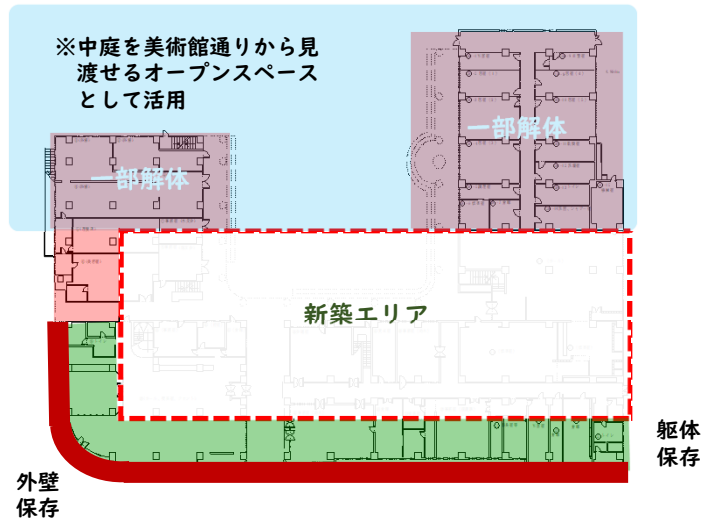
弘前れんが倉庫美術館【出典】公式HP

整備案概要	・青山クラブの外壁を残して建物を解体し（外壁から最低1スパン分は躯体を残す），必要な機能の想定面積の建物を新築整備する。											
平面図		■青山クラブ整備費 <table><tr><td>耐震・補強</td><td>約29億円</td></tr><tr><td>アスベスト除去</td><td>約3億円</td></tr><tr><td>建物等撤去</td><td>約10億円</td></tr><tr><td>建物・外構</td><td>約8億円</td></tr><tr><td>整備費合計</td><td>約50億円</td></tr></table> ※整備費は概算の数値です。	耐震・補強	約29億円	アスベスト除去	約3億円	建物等撤去	約10億円	建物・外構	約8億円	整備費合計	約50億円
耐震・補強	約29億円											
アスベスト除去	約3億円											
建物等撤去	約10億円											
建物・外構	約8億円											
整備費合計	約50億円											
各案の比較ポイント	【新築建物】 ・青山クラブの建物の外壁を保存することで，青山クラブのイメージを残しつつ，配置する機能に応じた建物を柔軟に整備できる。 ・必要な機能・面積に応じた適切な建物を整備する。 【中庭】 ・中庭について，広い空間を確保するとともに，美術館通りからのオープンスペースとして活用することが可能											
	【新築建物】 ・機能に応じて，建物の大きさ，レイアウトを自由に設定することが可能となる。 ・建物の耐震改修・補強工事に比べて，整備費を抑えることが可能となる。 ・整備後の維持管理に係る費用が，建物を保存する場合と比較して縮減される。 ・新築建物は，現行法規に対応した仕様により整備することが可能となる。 【青山クラブの保存部分（外壁）】 ・外壁から最低1スパン分は躯体を残す必要がある（外壁のみの保存はできない）。 ・この部分についても，耐震補強は必要となる。											

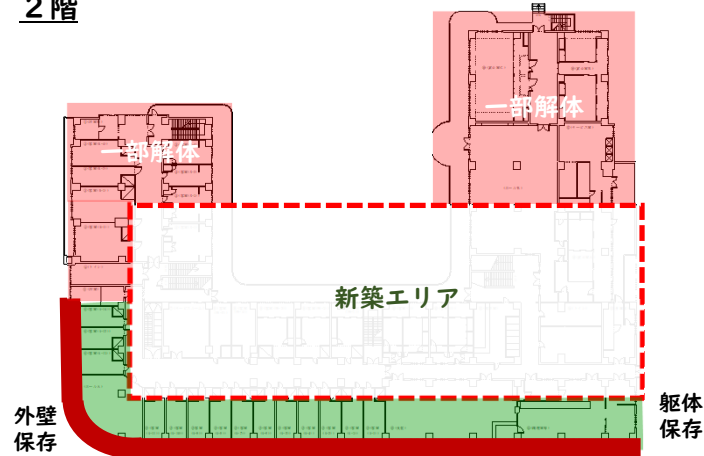
地下1階



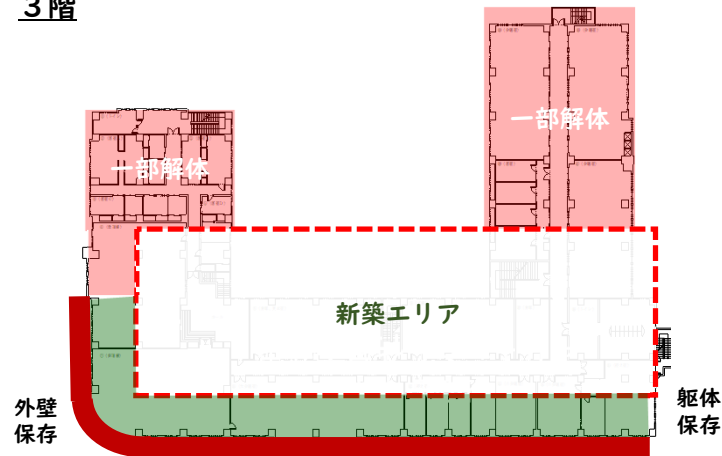
1階



2階



3階



青山クラブ外壁保存
⇒青山クラブの外壁を残して建物を解体したスペースに下記の案をもとに機能を検討し、複合施設を新築整備

■第1案の場合

呉の歴史を伝え、感じる施設

歴史展示室・収蔵庫

文学館

映像作品ライブラリー

まちの情報発信・賑わいの拠点

情報発信コーナー

カフェ・レストラン

フリースペース

物販施設

宿泊施設

フリースペース

■第2案の場合

文化・芸術に親しみ、発信する施設

新美術館

まちの情報発信・賑わいの拠点

情報発信コーナー

カフェ・レストラン

フリースペース

物販施設

宿泊施設

フリースペース



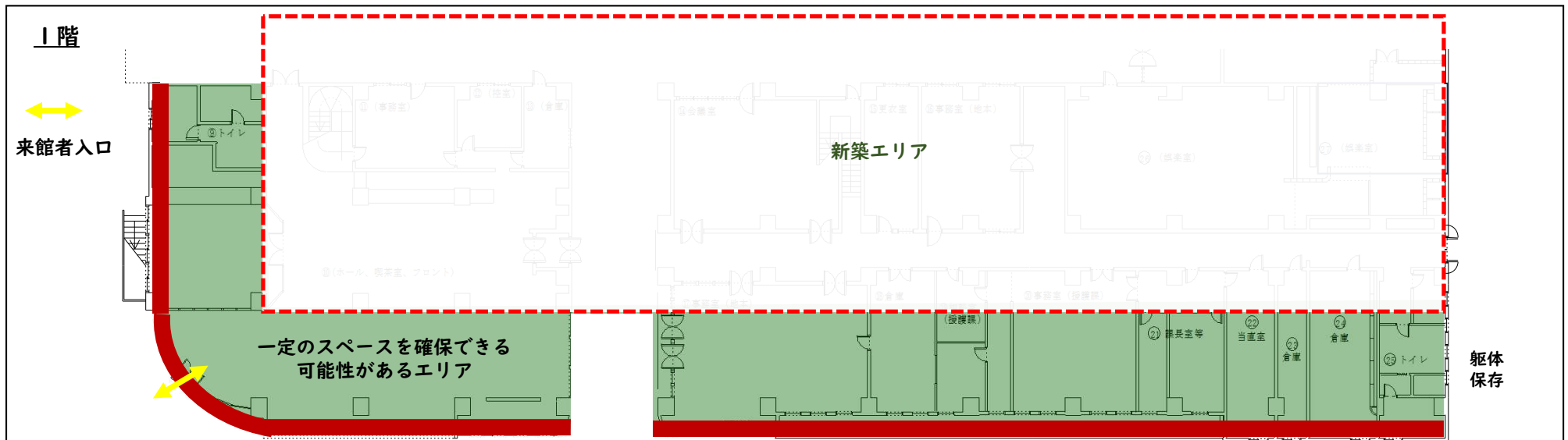
九段会館テラス



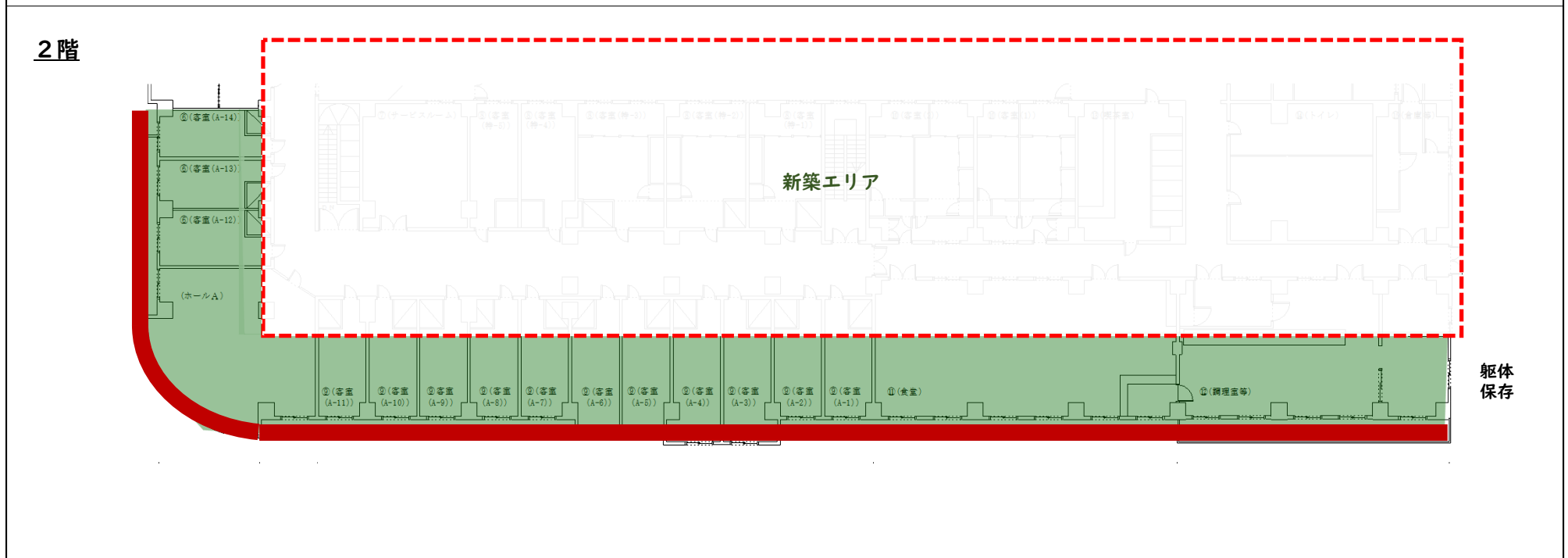
九段会館テラス【出典】公式HP

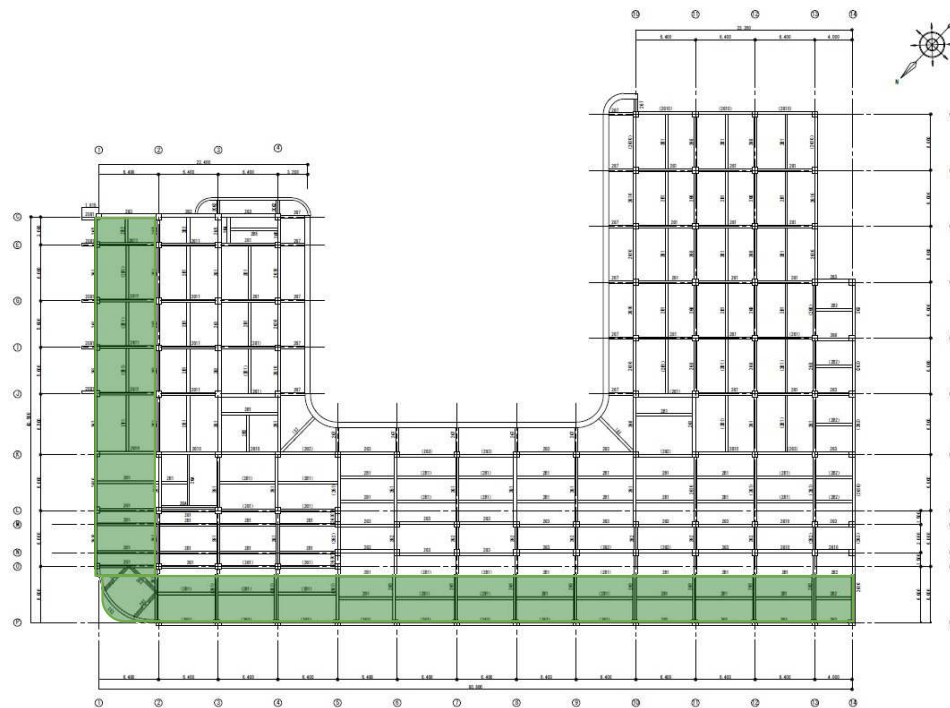


日本橋ダイヤビルディング【出典】公式HP



- ・躯体保存部分は、スペースが小さく、活用が困難
- ・Rの形状となっている部分など、一定のスペースを確保できる可能性がある部分は活用を検討





■ 外壁保存に当たり、建物（床面）の保存が必要となる範囲

●外壁保存の考え方

設計条件

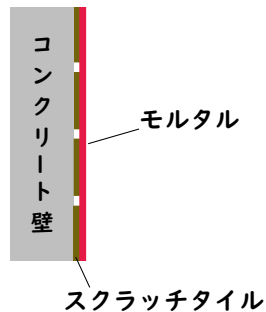
- ・梁の切断は不可
- ・外壁面から最低1スパン分の床面は撤去不可
- ※保存部分で構造的に自立するように外壁から柱までの躯体を残す必要がある。
- ⇒外壁面から最低1スパン部分についても耐震補強が必要

設計条件の考え方

- ・曲げ応力が他部にかかり、全体の耐力バランスが崩れる。
- ・外壁にかかる梁の拘束が失われる。
- ・床面の持つ「地震力の伝達機能」が失われ、荷重の伝達が不成立となる。

■青山クラブの外壁の構造

- ・外壁はレンガ造りではなく、スクラッチタイルの貼り付け
- ・昭和56年にスクラッチタイルの上からモルタルを塗っている状態



■青山クラブの外壁の課題

- ・青山クラブの外壁のタイルは、現代のタイルと比較すると、薄くてもろい。
- ・青山クラブの外壁のタイルは劣化が激しく、創建当時の外壁復元は非常に困難である。



■A案 創建当時の外壁再現案



青山クラブ（昭和27年～28年）〈C.R.Butterworth氏提供〉

【整備の考え方】

- ・現在の外壁材（モルタル）をはがすとスクラッチタイルも破損する。
- ・現在の外壁を活用して創建当時の外壁を再現する場合、外壁材（モルタル）・スクラッチタイルを削りとった上で、新たに（当時のスクラッチタイルの色・形状を再現した）スクラッチタイルを貼る必要がある。
- ⇒創建当時の外壁を再現するには、当時の外壁を復元した意匠により、新たに建物を整備する方法が望ましい。
- ・新築として、創建当時の外壁を復元した意匠とすることで、地域の記憶を継承した景観提案を行うことができる。

【第1案 青山クラブ全部保存案の場合】

- ・青山クラブ全部保存案の場合、建物を全部保存することから、外壁を削りとることや、外壁のみの新築は望ましくない。
- ⇒青山クラブ全部保存案の場合、創建当時の外壁再現は困難

【第2案 青山クラブ一部保存案の場合】

- ・美術館新築部分については、青山クラブの外壁を残さず、創建当時のイメージを踏まえた外観とする。
- ・青山クラブ一部保存部分については、外壁を削りとった上で、当時の色・形を再現したスクラッチタイルを貼る方法を検討。

■B案 既存外壁保存案



【整備の考え方】

- ・既存外壁のまま保存する。
- ・外壁の劣化が進行しており（スクラッチタイルの剥落等）、現行のまま保存する場合でも、補修等の対応は必要
- ・既存外壁を保存することで、地域に根付いた現在の景観を保存することができる。

【第1案 青山クラブ全部保存案の場合】

- ・既存外壁のまま保存

【第2案 青山クラブ一部保存案の場合】

- ・青山クラブの一部保存部分は、既存外壁のまま保存
- ・美術館新築部分についても、青山クラブの建物のイメージを踏まえた外観とするとは可能

・外壁のみ保存することはできず、最低1スパン分は躯体を残す必要がある（この部分についても耐震補強が必要となる）。

・創建当時の外壁を再現する場合、現在の外壁をそのまま残すことは出来ない。

⇒外壁のみを保存するメリットは少ない。



■桜松館の整備について

- 全部保存・活用を基本として検討
 - ・ホールの機能を有効に活用していくため、全部保存・活用を基本として検討を実施
 - ・建物の大部分において、耐震改修工事・補強工事、アスベストの除去、内装・設備機器一式の更新等、大規模な改修が必要
 - ・屋根の架替改修工事が必要
- 美術館との一体的な活用の検討
 - ・第1案～第3案ともに、美術館との一体的な活用を検討
- 来館者出入口の整備
 - ・現行の出入口に加え、美術館通り側に新たな来館者出入口を整備

■桜松館整備費

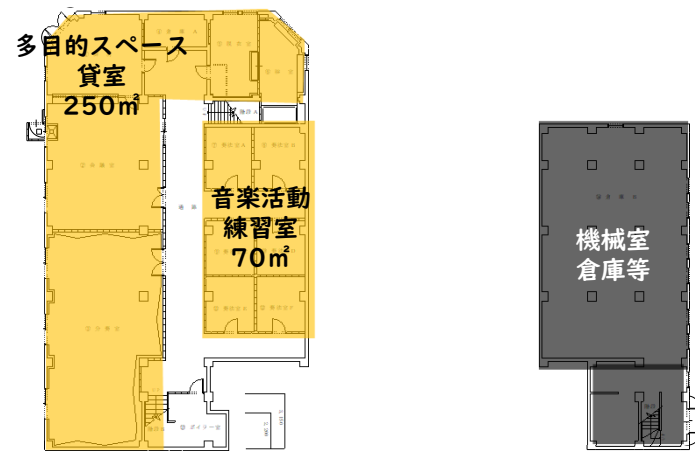
耐震・補強	約 11 億円
アスベスト除去	約 1 億円
建物等撤去	—
建物・外構	約 13 億円
整備費合計	約 25 億円

※整備費は概算の数値です。

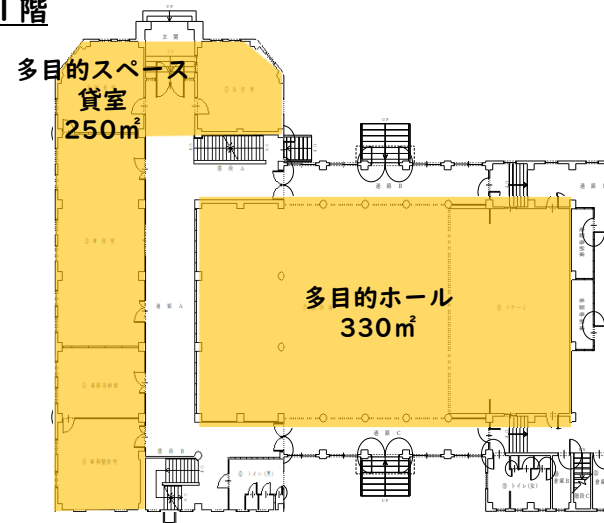


桜松館（美術館通り側）

地下1階



1階



桜松館全部保存

⇒桜松館の建物を全部保存・活用

地下1階

文化・芸術に親しみ、発信する施設

音楽活動練習室	70m ²
多目的スペース・貸室	250m ²

1階

文化・芸術に親しみ、発信する施設

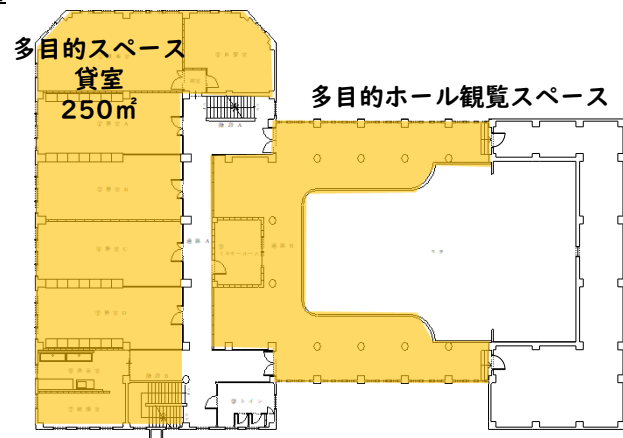
多目的ホール	330m ²
多目的スペース・貸室	250m ²

2階

文化・芸術に親しみ、発信する施設

多目的ホール観覧スペース	—
多目的スペース・貸室	250m ²

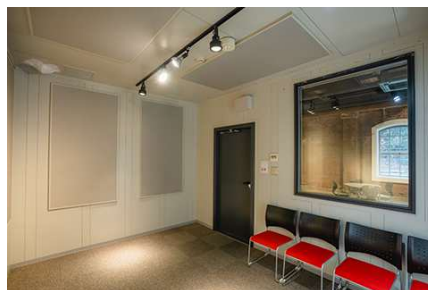
2階



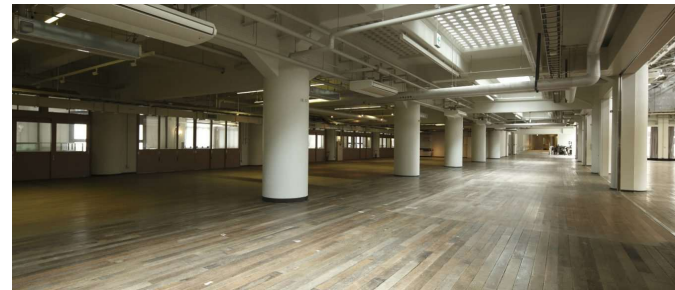
桜松館ホール



舞鶴赤れんがパーク・市政ホール【出典】公式HP



舞鶴赤れんがパーク・スタジオ【出典】公式HP



デザイン・クリエイティブセンター神戸・ギャラリーA【出典】公式HP

■第2案（美術館青山クラブ敷地・中庭新築案）での検討案



■幸町地区内の回遊性向上案

- 入船山記念館旧呉鎮守府司令長官官舎へのアクセス向上の検討
 - ・第2案（美術館青山クラブ敷地・中庭新築案）の場合、新美術館の屋上に、旧呉鎮守府司令長官官舎と高さを合わせた塔屋を設置
 - ・塔屋最上部と旧呉鎮守府司令長官官舎を空中回廊で結ぶ。
（最上部まではエレベーターで移動）
 - ⇒空中回廊の足場が土砂災害特別警戒区域に位置することから対策が必要（対策内容・塔屋の整備費については検討が必要）
 - ・第1案（美術館現在地建替案）の場合、中庭にエレベーター塔を設置し、旧呉鎮守府司令長官官舎と空中回廊で結ぶ。
- 地区内回遊性向上の検討
 - ・新美術館と桜松館、桜松館と現美術館を空中回廊で結ぶ
 - ・入船山公園駐車道と新美術館屋上を空中回廊で結び、駐車場からのアクセス向上を図る。

■中庭活用案

- 第2案（美術館青山クラブ敷地・中庭新築+青山クラブ一部保存案）の場合、中庭を美術館通りからJR呉線側道路までのオープンスペースとして整備し、市民に開かれた賑わい空間として活用
- 第1案（美術館現在地建替案+青山クラブ全部保存案）の場合、中庭を創建当時の雰囲気が残るクローズな空間として活用



熊本城特別見学通路【出典】公式HP



熊本城特別見学通路【出典】公式HP



入船山秋祭り



立誠ひろば【出典】公式HP